

あいち病害虫情報 最新情報

平成 21 年 8 月 17 日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除グループ

ようやく夏がきた!?

東海地方の気象は8月3日ごろ梅雨明けした後も、降水量は平年より多く、日照時間は平年より少なく推移しています。しかし、気象予報によれば、今後は平年と同様に晴れる日が多い見込みですので、ほ場での病害虫の発生状況をよく観察し、的確な防除を心がけましょう。

イネの病害虫

穂いもちが、一部の地域において確認されています。今後の天候によっては穂いもちが広がるおそれがありますので、ほ場での発生状況を確認し、上位葉に病斑を見つけたら防除を実施しましょう。なお、防除薬剤は、7月15日発表の「いもち病(葉いもち)情報第3号」を参照してください。

セジロウンカは、平年並に推移しています。ただし、一部地域においては平年よりもやや多い発生状況になっていますので注意しましょう。トビイロウンカの発生を本田すくい取り調査で確認しました。本種は、ほ場内で局部的に生息することが多いので、今後ほ場での発生状況に注意してください。

フタオビコヤガ(イネアオムシ)の被害が目立つほ場が一部地域にあります。今後、出穂期前に加害されると出穂遅延や登熟が阻害されるおそれがあります。被害が多い場合はできるだけ早く防除を行いましょう。

斑点米の原因となるカメムシ類の発生が、平年より多い状況が続いています。今後出穂してくるほ場では、発生状況に特に注意し、8月3日発表の「病害虫発生予察注意報第1号」を参考に適切に防除してください。

ハスモンヨトウ

ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は、地域により差がありますが、平年並の発生状況です。ただし、今後しばらくは残暑が続くことから、ハスモンヨトウが急激に増加するおそれがあります。そのため、ほ場の発生状況には十分注意してください。ダイズでは白変葉が見られ始めたら、早めに防除しましょう。詳しくは8月4日発表の「ハスモンヨトウ情報第1号(ダイズ)」を参考にしてください。

果樹の病害虫

チャバネアオカメムシのフェロモントラップ、予察灯における誘殺数は少ない状況が続いており、果樹園への飛来は確認されていません。しかし、8月上旬の愛知県内6か所におけるヒノキでの新世代寄生虫数はやや多い状況です(過去8年で3番目に多い)。また、ヒノキ1球果当たりの口針鞘数は8.3本です。口針鞘数による飛来予測では9月上旬から9月中旬に離脱が始まると予測しています(口針鞘数が25本になるとヒノキから離脱して果樹園へ飛来します)。果樹園内をよく見て回り、果樹カメムシ類の飛来に注意しましょう。なお、詳細については、本日発表の「果樹カメムシ情報第2号」を参照してください。

チャノキイロアザミウマ第6世代成虫の発生ピークは、東海市8/23、名古屋市8/24、岡崎市および蒲郡市8/29、豊田市および豊橋市8/31、南知多9/1、伊良湖9/2、稲武においては第4世代成虫の発生ピークが8/22と予測されました(JPP-NET、8/12まで実測値で計算)。カンキツ園での発生量は概ね平年並ですが、ミカン果頂部が加害される時期ですので注意

してください。

ナシヒメシンクイのフェロモントラップにおける誘殺数は、犬山市（モモ）、豊橋市（ナシ）など一部地域でやや多い状況が続いています。また、幸水などで被害果が目立つほ場も散見されています。成虫の発生盛期から10日後頃が防除適期になりますので、フェロモントラップの誘殺状況を参考に適期防除を心がけましょう。

8月下旬から9月上旬はカキのうどんこ病の防除時期にあたります。収穫前日数に注意して防除しましょう。

ブドウのべと病とナシのうどんこ病が一部ほ場で多発しています。このところ晴天が続き気温が高いので病勢は弱まっていますが、来年の伝染源にならないよう被害落葉の処理を徹底し、収穫後の防除をしましょう。

野菜・花き類のりん翅目害虫に注意！

オオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺数は、稲沢市、豊川市のキクほ場で平年よりやや多い状況です。キクでは例年、9月になってからオオタバコガによる被害が確認されていますので、発生動向に注意しましょう。

ハイマダラノメイガのフェロモントラップにおける誘殺数は現在のところやや少ない状況ですが、発芽、定植直後に加害を受けると大きな被害になりますので、8月に播種や定植するアブラナ科野菜では特に注意が必要です。

ハスモンヨトウは、ほ場周辺のサトイモやダイズ畑の被害状況を参考にし、ほ場での発生に注意しましょう。

播種時や定植前に、薬剤のセル苗処理が可能な作物の場合はできるだけ薬剤処理して、初期被害を少なくするよう心がけましょう。キャベツ、ブロッコリー、ハクサイなどの苗や、早まきのダイコンでは、防虫ネットを設置することも成虫の飛来防止に効果的です。

タバココナジラミに注意

トマト黄化葉巻病の病原ウイルス（TYLCV）を媒介するタバココナジラミが各地で見られます。屋外の粘着トラップにおけるコナジラミ類の誘殺数は現在のところ多くはありませんが、今後の増加が心配されます。施設開口部に防虫ネット（目合い0.4mm以下）を設置するとともに、ほ場での発生に注意し、早期防除に努めましょう。

また、露地トマトの発病株の抜き取りなど、地域ぐるみでも対策に取り組みましょう。

○ 農薬散布後は、防除器具のタンクやホースも洗いもれがないようにしましょう。

○ 農薬は安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。

○ 防除の際は、周辺作物に飛散しないよう注意しましょう。

・ 防除面積や用途に応じた防除器具、散布ノズルを選択しましょう。

・ 散布するときは朝夕など風の影響が少ない時間を選びましょう。

・ 風向きに注意し、他の作物の方向に散布しないように作業しましょう。

・ 飛散の恐れがあるときは、近接ほ場の生産者に連絡しておきましょう。

ポジティブリスト制度・農薬ドリフト対策については

<http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/minor.html> をご覧ください。

問い合わせ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病虫害防除グループ
TEL 0561-62-0085 FAX 0561-63-7820